

教育研究業績書

令和 3 年 3 月 31 日

氏名 澤崎 敏文 印

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. PowerPoint でかんたん！動画作成 - オンライン教材・授業動画・解説動画・プロモ動画を手軽に作って配信 2. 売れるお店の法則と地域の活性化	単著	令和 3 年 2 月	技術評論社 ISBN(978-4297119409)	学校等で必要な動画教材や解説動画を手軽に PowerPoint を使って作成する方法についての書籍 本学、マルチメディア演習の教科書としても利用予定
	単著	平成 27 年 2 月	DoCompany 出版 (電子書籍)	地域活性化、まちづくりを研究する大学生のゼミ活動をとおして見えてきた、地域活性化の在り方についての提案と、価格戦略等に関する新しい法則
(学術論文) 1. PBL としての海外実践活動と授業設計に関する考察 2. 大学の講義と連動した企業研修プログラムの開発と効果に関する考察 3. 地域連携での PBL 型授業の環境整備に関する一考察 4. 企業研修と連動したキャリア教育プログラムの開発と考察 5. 企業・自治体との連携による PBL 型授業設計とその実践 6. 産学官連携による Project Based	共著	令和 3 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 53 号, pp. -	2018～2019 年度に行った海外での実践活動を PBL として授業化するための研究とその考察。台湾企業での学生の社会活動実践と授業設計への反映について PBL という観点からの考察を行う。 共著者名：澤崎敏文、野本尚美
	単著	令和 2 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 52 号, pp. -	2017～2019 年度に企業・商工会議所と連携して実践した研修プログラムの開発とその効果についての研究 企業における従業員研修と、大学における学生のための学習活動を連動させ、それぞれのプロセスの中で協働できる接点を作ることで、双方における学びへの動機づけ、学習効果等の向上を狙っている
	単著	令和 2 年 3 月	教育システム情報学会 2019 年第 6 回研究会 論文集, pp - (2020)	近年、企業・地域との連携による PBL 型授業が増加傾向にあり、授業実施時における関係者の数も多岐にわたるため、予測しなかった課題等に直面することも少なくない。そこで、2 つの実践例を比較しながら、持続可能な地域連型 PBL の環境整備という観点で考察を行う。
	単著	令和元年 5 月	教育システム情報学会 2019 年第 1 回研究会 論文集, pp11-14 (2019)	キャリア関連の授業(企業研究)において、2017 年度、2018 年度に実践した企業連携について
	単著	平成 31 年 3 月	日本教育工学会研究報告集 (JSET 19-1), pp717-720	学生らがリアリティを持って学習できるような PBL 型授業を設計・構築し様々な機会をとらえて実践してきたが、その中でも企業との連携、自治体との連携の 3 つの実践例を比較し、その課題等について考察
単著	平成 31 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 51 号,	PBL 型授業で提示される課題としてどのようなものであれば学生がリア	

Learning の設計とその実践			pp. -	リティを持ち、かつ、学習意欲の向上につながるかという視点で試行した民間企業との連携、行政機関との連携という3つの事例を比較・考察
7. ネパールでの支援活動実践と PBL としてのサービスラーニングの可能性	単著	平成 30 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 50 号, pp. -	ネパール山岳地域の小学校にて実施した教育交流・ボランティア活動を対象に、PBL としてのサービスラーニングのあり方と、そのプロジェクト設計のために活用可能なチェックリストの有効性、学習成果等とその可能性について考察
8. アクティブラーニングにおけるグループワークの可視化手法の提案について	単著	平成 28 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 48 号, pp. -	グループワークの質の向上のため、発話パターンを定量的に分析することで、グループワークの状態を可視化し、形成的評価に利用可能な可視化手法の提案.
9. 「学習成果の可視化」システムの構築－到達度評価の活用－	共著	平成 25 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 45 号, pp. 19-24	「学習成果の可視化」システムを構築するため、他大学の到達度評価方法を参考として設計した本学の方式を報告する. 共著者名：田中洋一，平塚紘一郎，澤崎敏文
10. 「学習成果の可視化」システムの構築－e ポートフォリオ Mahara の活用－	共著	平成 25 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 45 号, pp. 25-29	「学習成果の可視化」システムを構築するため、どのように学生ヘフィードバックしているか、運用事例を報告する. 共著者名：平塚紘一郎，田中洋一，澤崎敏文
11. Mahara による学習成果の可視化システム	共著	平成 24 年 12 月	日本教育工学会研究報告集 12(5), pp. 67-70	e ポートフォリオシステム Mahara と教務システムを連携した学習成果可視化システムの構築及び実践結果について報告. 共著者名：平塚紘一郎，田中洋一，澤崎敏文
(その他) 【国際会議発表】				
1. Designing Courses based on SECI model with Mahara, e-Portfolio (査読付)	共著	平成 25 年 10 月	Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education (ELEARN) 2013	高等教育の授業デザインを SECI モデルで分析し、そのプロセスにおいてオープンソース e ポートフォリオ Mahara を活用した実践を報告. <u>Toshifumi Sawazaki, Yoichi Tanaka</u>
2. Designing Courses based on SECI model with Mahara as an e-Portfolio (査読付)	共著	平成 25 年 7 月	Proceedings of the 11th ePortfolio and Identity Conference (ePIC) 2013	SECI モデルに基づいたフレックス e ポートフォリオ (Mahara) を用いた授業設計の報告. <u>Yoichi Tanaka, Toshifumi Sawazaki, Osamu Yamakawa</u>
3. Designing Courses Based on the SECI model with the Mahara e-Portfolio (査読付)	共著	平成 25 年 2 月	Proceedings of Educause Learning Institution 2013	Mahara を活用した効果的な授業デザインをナレッジマネジメントの手法でもある SECI モデルにて実践. その効果についての検証と効果について報告. <u>Toshifumi Sawazaki, Osamu Yamakawa, Yoichi Tanaka</u>

4. Mahara's Recent Situation in Japan, and Future (査読付)	共著	平成 25 年 7 月	Proceedings of Mahara UK 2012	日本における Mahara ユーザコミュニティ (MUC) 及び Mahara オープンフォーラム (MOF) の活動紹介. F レックスにおける Mahara, SNS, Moodle を連携させた基盤システムの設計思想の紹介. 授業における Mahara の活用事例の紹介. <u>Toshifumi Sawazaki, Yoichi Tanaka</u>
(その他) 【国内会議発表】				
1. 非同期型オンライン授業における動画の視聴者維持率と授業設計に関する考察	単著	令和 3 年 3 月	日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集, pp -	非同期型遠隔授業での授業動画において、配信動画の視聴者維持率と学習者の学習行動についての考察を行った. 今後広がりを見せるであろう遠隔授業設計に関する研究.
2. PBL としての海外実践活動と学習効果に関する考察	共著	令和 3 年 3 月	日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集, pp -	海外 PBL 活動に参加した学生 4 名に対するインタビューを質的に分析し、研修を通してどのような学びや気づきを得たのかを明らかにすることを目的とした研究. 共著者：野本尚美、澤崎敏文
3. 遠隔授業における動画配信の視聴者維持率と学習行動に関する考	単著	令和 2 年 9 月	教育システム情報学会第 45 回全国大会講演論文集, pp.195-196	オンデマンド型での授業動画の配信において、配信動画の視聴者維持率と学習者の学習行動についての考察を行った. 今後広がりを見せるであろう遠隔授業設計に関する研究.
4. 広報活動を主とした企業・自治体連携での PBL 型授業設計と実践	単著	令和元年 9 月	教育システム情報学会第 44 回全国大会講演論文集, pp.369-370	広報活動をキーワードに地元企業・自治体と連携した 2018 年度の 2 つの類似した実践例を比較しながら、その課題等について考察する.
5. 海外ボランティア活動によるサービラーニングの実践と課題	単著	令和元年 9 月	日本教育工学会 2019 年秋季全国大会講演論文集, pp559-560	学生らがリアリティを持って学習できるような PBL 型授業を設計・構築し様々な機会をとらえて実践してきたが、その中でも企業との連携、自治体との連携の 3 つの実践例を比較し、その課題等について考察
6. 企業研修と連動したキャリア教育プログラムの実践と考察	単著	平成 30 年 9 月	日本教育工学会第 34 回全国大会講演論文集, pp465-466	企業における従業員研修と、学生のための学習活動を連動させ、それぞれのプロセスの中で協働できる接点を作ることで、双方における学びへの動機づけ、学習効果等の向上を狙うための新しい学習プログラム・学習環境を開発と一部その考察
7. 企業研修と連動したキャリア教育プログラムの開発と実践	単著	平成 30 年 9 月	教育システム情報学会第 43 回全国大会講演論文集, pp.63-64	企業における従業員研修と、学生のための学習活動を連動させ、それぞれのプロセスの中で協働できる接点を作ることで、双方における学びへの動機づけ、学習効果等の向上を狙うための新しい学習プログラム・学習環境を開発について
8. 「笑い」と性格に関する考察 (査読付)	単著	平成 30 年 7 月	日本笑い学会第 25 回大会 A 部門「研究発表部門」発表一覧	「笑い方と人の性格には関連性 (相関) はあるのか」、「笑いの種類によって人の性格はどこまで判断できるのか」についての考察
9. ネパールでの支援活動実践とサービラーニングの可能性	単著	平成 29 年 9 月	日本教育工学会第 33 回全国大会講演論文集, pp859-860	ネパール山岳地域の小学校にて実施した本学学生の自発的活動である教育交流・ボランティア活動をとおして、PBL としてのサービラーニングのあり方、学習成果等とその可能性についての考察.

10. ネパール支援活動によるサービスラーニングの可能性とその考察	単著	平成 29 年 8 月	教育システム情報学会第 42 回全国大会講演論文集, pp.278-279	ネパール山岳地域の小学校にて実施した本学学生の自発的活動である教育交流・ボランティア活動をとおして、PBL としてのサービスラーニングのあり方、学習成果等とその可能性についての考察。
11. 地元企業等との連携による PBL 型授業設計とその実践	単著	平成 28 年 9 月	日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集, pp163-164	学生がリアリティを持って学習できるような PBL 型授業を構築するにあたり、地元企業等との連携により課題解決型授業を実践したその設計手法および事例と課題報告。
12. 地元企業・行政機関との連携による PBL 型授業設計とその実践	単著	平成 28 年 8 月	教育システム情報学会第 41 回全国大会講演論文集, pp.299-300	学生がリアリティを持って学習できるような PBL 型授業を構築するにあたり、地元企業や行政機関等との連携により課題解決型授業を実践したその事例とその課題報告。
13. アクティブラーニングにおけるグループワークの可視化手法に関する提案	単著	平成 27 年 9 月	教育システム情報学会第 40 回全国大会講演論文集, pp.367-368	グループワークの質の向上のため、発話パターンを定量的に分析することで、グループワークの状態を可視化し形成的評価に利用可能な可視化手法の提案。
14. アクティブラーニングにおけるグループワークの可視化について	単著	平成 27 年 9 月	日本教育工学会第 31 回全国大会講演論文集, pp641-642	グループワークの質の向上のため、発話パターンを定量的に分析することで、グループワークの状態を可視化し形成的評価に利用可能な可視化手法について、今後の展望等
15. PBL 型授業設計と企業参加型の授業実践	共著	平成 26 年 9 月	日本教育工学会第 30 回全国大会講演論文集, pp. 757-758.	学生がリアリティを持って学習できるような PBL 型授業を構築するにあたり、企業の現実の問題を授業課題として活用した実践例とその課題報告. 共著者：澤崎敏文，田中洋一
16. SECI モデルにおける e ポートフォリオの効果（査読付）	共著	平成 24 年 9 月	日本教育工学会第 28 回全国大会講演論文集, pp. 147-148.	福井県内の高等教育機関が連携して仮想的総合大学環境を構築するプロジェクト「フレックス」では、基盤システムである e ポートフォリオ・LMS・SNS を活用した学習環境デザインを行っている。授業という学習共同体における知識創造を SECI モデルで分析し、e ポートフォリオの効果について報告。共著者：田中洋一，澤崎敏文，山川修
17. Mahara を利用した学習成果の可視化システムの構築	共著	平成 24 年 9 月	日本教育工学会第 28 回全国大会講演論文集 pp. 677-678	e ポートフォリオ Mahara と教務システムを連携した学習成果可視化システムの設計について報告。共著者：平塚紘一郎，田中洋一，澤崎敏文
18. Mahara を用いた SECI モデルにもとづく学習環境デザイン	共著	平成 24 年 9 月	Mahara オープンフォーラム 2012 講演論文集 pp. 28-31	福井県大学連携プロジェクト (フレックス) では、基盤システム (e ポートフォリオ「Mahara」、LMS「Moodle」、SNS「OpenSNP」) を用いて、SECI モデルにもとづく知識創造を行う学習共同体を構築している。仁愛女子短期大学及び福井県立大学における Mahara を用いた授業設計や学習支援

19. 大学間連携における e ポートフォリオ、LMS、SNS を連携した教育実践 (査読付)	共著	平成 23 年 9 月	日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集 pp. 119-122	大学連携 F レックスにおける e ポートフォリオ、LMS、SNS を連携した授業デザインの実践とその教育的効果について報告. 共著者: 田中洋一, 澤崎敏文, 山川修
20. オープンソース e ポートフォリオを用いた教育実践のすゝめ	共著	平成 22 年 12 月	平成 22 年度情報教育研究集会講演論文集 pp. 362-364	オープンソース e ポートフォリオ Mahara を用いた教育実践に関して報告. 共著者: 田中洋一, 山川修, 澤崎敏文
21. 大学間連携におけるオープンソース e ポートフォリオを用いた教育の実践 (査読付)	共著	平成 22 年 9 月	日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集 pp. 137-140	大学間連携でオープンソース e ポートフォリオを運営, 教育実践を行う事例及びメリットを報告. 共著者: 田中洋一, 山川修, 澤崎敏文
22. 大学連携における学習コミュニティのデザインと実践 (査読付)	共著	平成 22 年 9 月	日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集 pp. 67-70	福井県の大学連携における学習コミュニティのデザイン原則や実践を報告. 共著者: 山川修, 藤原正敏, 坪川武弘, 籠谷隆弘, 菊沢正裕, 杉原一臣, 北野皓嗣, 徳野淳子, 田中洋一, 澤崎敏文
23. 学習コミュニティ構築を意図した連携基盤システム	共著	平成 22 年 8 月	教育システム情報学会第 35 回全国大会講演論文集 pp. 341-342	学習コミュニティを構築するため設計した連携基盤システムの報告. 共著者: 山川修, 籠谷隆弘, 徳野淳子, 田中洋一, 澤崎敏文
(その他) 【雑誌原稿】				
1. 求められる IT 化による実質的改革	単著	平成 16 年 1 月	東京財団レポート 2004 年 1 月号	「民間的経営感覚を行政に」を研究テーマに米国にて情報技術 (IT) を活用した業務の効率化について学び、行政の電子化を担当する立場から、日本の行政の IT 化の課題についての考察
2. 若手職員が 21 世紀型の行政課題で政策提言	単著	平成 18 年 7 月	月刊地域づくり	従来型の行政機関の政策決定を、新しい政策立案手法であるベンチャー事業として庁内に導入した目的および実際のその成功事例について、その事業の狙い等に対する事業企画担当者の考察
3. 福井県の庁内 SNS 導入例 オープンソースソフトウェアを活用	単著	平成 20 年 1 月	時事通信社 地方行政	全国初となる自治体業務 SNS の導入手法および、オープンソースと呼ばれるソフトウェア群の活用手法について、必要なハードウェア、ソフトウェアの検証および構築に対する課題の検証
4. 庁内 SNS 「福井県職員政策フォーラム」で、自由闊達な議論の場を実現	単著	平成 20 年 3 月	月刊 LASDEC 地域情報化センター	全国初となる自治体業務 SNS 「crab net」システムの概要および導入の効果、導入プロセス等の詳細な検証および課題等の考察